

## 文化・芸術

### 「信(クル病の子)」「6ぶ」

1940年、エッチング・ドライポイント  
紙 47・6枚×36・0枚

笠木實 (1920～2018年)

前回につづき桐生出身の画家笠木實の作品を紹介します。

笠木は、桐生中学校時代から美術に関心をよせるようになり、エッチング(銅版画)という技法を知ります。西田武雄が主宰する東京にあったエッチング研究所に通いはじめました。生家である魚問屋「魚萬」が繁盛していたからでしょう、当時とても高価なエッチングプレス機まで購入できました。

1937(昭和12)年、東京美術学校油絵科入学。同期には清宮質文、また1学年下には駒井哲郎がいて交友。41年12月、同学校を繰り上げ卒業。翌年には、桐生市の桐生倶楽部で個展を開催しました。

この作品では、エッチングの習熟した技術もさることながら、大人たちにまじって働く少年の大きな瞳の無垢(むく)な表情に、とてもひかれます。笠木の早熟で卓抜した表現力と、人間を見つめる温かなまなざしに脱帽です。

(田中)



### 〈名画の扉〉

大川美術館テーマ展  
「描かれた桐生の「昭和」から